

知肢併置特別支援学校における児童生徒増加への対応策
野洲養護学校分校の設置について

1 経過

- 平成24年2月9日 教育委員会で「知肢併置特別支援学校における児童生徒増加への対応策」について可決、10日に公表
野洲養護の分校を聾話学校敷地に設置する計画(案)を提案
- 13日 常任委員会に報告
- 3月9日 聾話学校保護者説明会
- 21日 野洲養護学校保護者説明会
栗東市教委に説明
- 4月17日 ←聾話保護者代表より請願…分校案の白紙撤回と新養護学校建設
- 5月7日 聾話学校周辺3自治会長、栗東市教委へ計画案を説明
- 26日 ろうあ協会に説明
- 6月15日 ←野洲養護保護者、教員から個人請願…4/17と同様
- 7月9日 教育長が聾話学校、野洲養護学校訪問
- 7月11日 ←聾話学校・野洲養護保護者代表要望書提出、知事・教育長と面談

2 聾話学校への分校設置の課題

- (1) 聾話学校保護者に、異なる障害のある児童生徒の受け入れに対する不安が強い。
- ① 児童生徒同士の接触による人工内耳等装着児童生徒の事故の懸念
- ② スクールバス、送迎車などの増加による聴覚障害児の事故の懸念
聾話学校生のチャーターバス、就学前指導児15名の保護者送迎車両に、分校設置により分校用スクールバス、保護者送迎車両が加わり、校内出入り車両が増加することによる事故発生と自主通学生の安全確保。
- ③ 聴覚障害児に必要な静謐な学習環境が保持できない。
- (2) 周辺地元の理解と協力が得られるか。(周囲は住宅地、スクールバス通行の増加等)

3 聾話学校への分校設置の改善案

- (1) 現建物と平行に新校舎を配置し、各校への自動車動線の分離等を図る。
- (2) 聾話学校1階の普通教室と2階の特別教室を配置換えし、聴覚障害児の教室の静謐環境の保持と、分校生との接触事故の軽減を図る。
- (3) 寄宿舎または就学前学習棟を運動場近辺へ移設する。
- (4) 作業棟等の改修、その他のバリアフリー化を行う。
- (5) 校地、水路などの危険防止対策としてネットの高さを上げる。
- (6) 校地外の近隣の場所に保護者・教員駐車場を確保する。

4 聾話学校改善案の課題

- (1) 住宅地域に位置し、校地の拡大をすとしても奥まった限られた場所となり、進入路の確保が困難。
- (2) 寄宿舎等の移転等により、事業費が約5～8億円増加する。
- (3) 地域住民、関係者の合意に時間を要する。

5 聾話学校以外の代替場所の検討

(1) 特別支援学校の活用

聾話学校以外には守山養護学校があるが、小児保健センター入院児対応の病弱特別支援学校のため、広さと医療管理の面で困難

(2) 高校の活用

① 対象高校

野洲通学区内：守山高校、守山北高校、栗東高校、国際情報高校、野洲高校

野洲通学区周辺：湖南農業高校、石部高校

② 全体的な問題

1) 県南部地域は年少人口が増加しており、今後高校生が増加すると見込まれるため、活用は難しい。

2) 上記の高校の活用は、通学区再編を伴うため短期では実現が難しい。

③ 知肢併置・小・中・高等部の100人の分校とする場合の課題

1) 肢体不自由児、小・中学部生に対応できる新校舎の建設のため校地が必要

2) 肢体不自由児、小・中学部生に対応できる体育館、プール、階段等のバリアフリー化が必要

④ 知的障害高等部の100人にする場合の課題 <規模96人：4クラス>

1) 分教室となるが、規模が大きく新校舎建設が必要になる。

2) 体育館、階段等で安全対策の強化が必要

結論 個別に検討した結果、敷地、校舎に余裕のある高校はなく、高校の活用は困難である。

(3) その他施設・敷地の活用

① 県有地などで、速くに活用できる土地、建物は見あたらない。

② 活用可能な小・中学校はない。また、設置者が異なるため調整に時間を要する。

6 野洲養護学校内の校舎増築

(1) 100人分の教室増築に必要な土地の確保が可能

(2) 課題

① 将来的に400人規模の学校となる。

② 給食施設、体育施設などの拡充が必要

→体育施設不足には、校舎内に大型プレールームを設置し対応

→給食は、部分外部委託を検討

結論 野洲養護学校地内に普通教室、特別教室等を増築する。

《参考》

<平成24年度全国特別支援学校実態調査より>

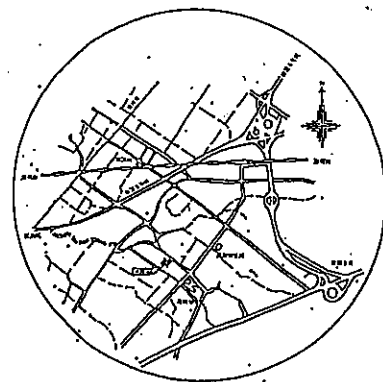
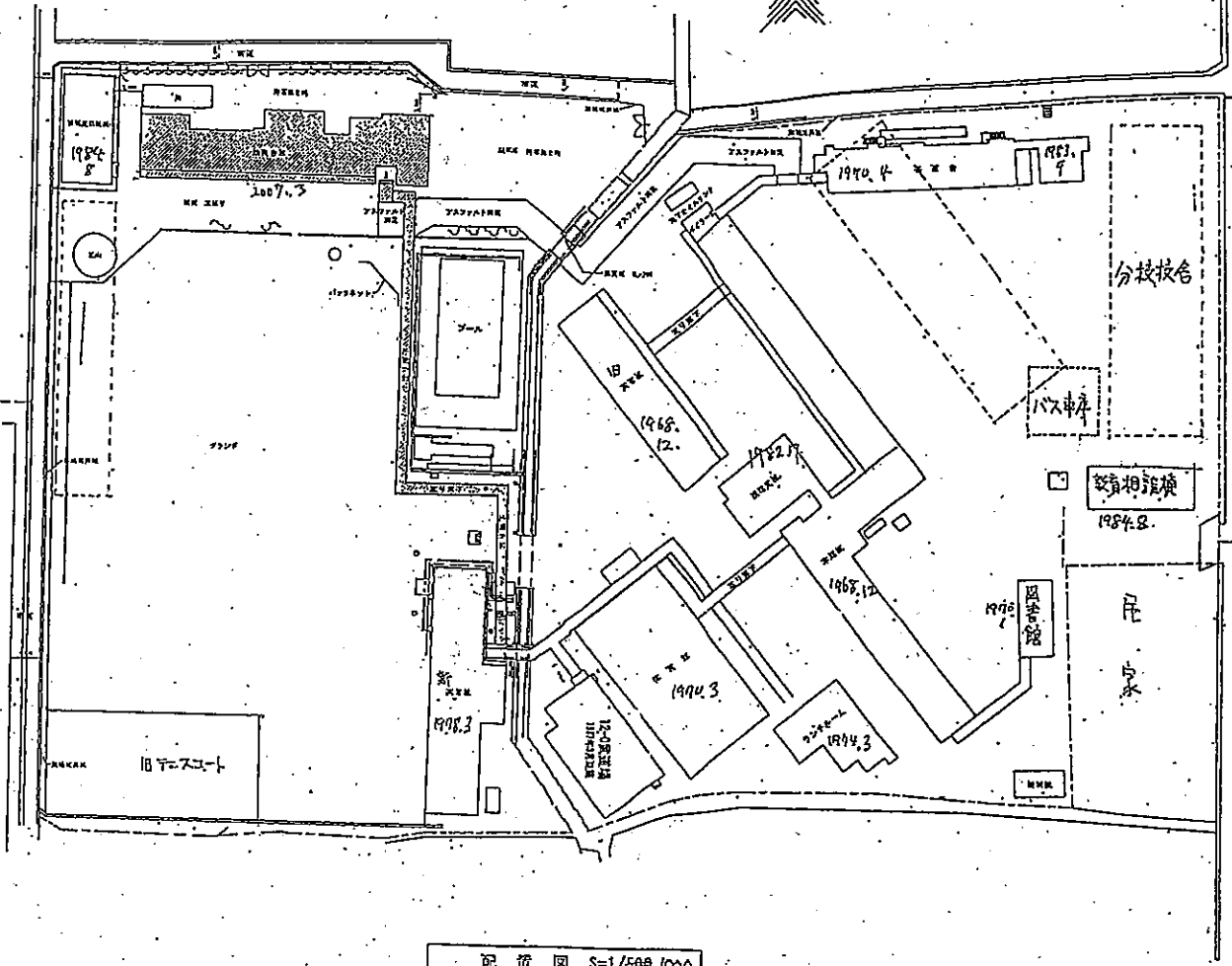
全国… 400人を超える特別支援学校 … 12校 (500人以上：1校)

300人～400人の特別支援学校 … 41校 草津(300)、野洲(301)

【東京都】府中けやきの森(426) 【静岡県】藤枝(473)、袋井(402)

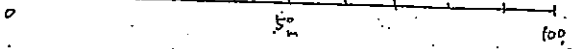
【愛知県】春日台(432)、三好(413)、半田(451)、安城(405)、豊川(512)、一宮東(483)

【大阪府】佐野(474) 【大阪市】生野(469) 【兵庫県】姫路(416)



付近見取り図

配置図 S=1/500 1000



-3-

聾話学校

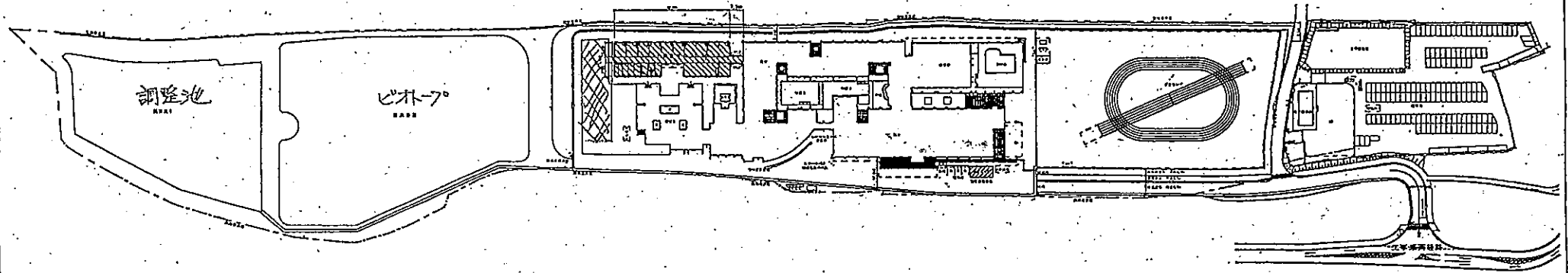
守建設株式会社
東京都中央区三丁4-1-1
Tel 037-562-3244



聾話学校幼稚舎棟新築その他工事
(建築)

竣工図

配置図 S=1/500 1000



野洲養護学校

KATABUCHI ARCHITECTS OFFICE
 株式会社 片渚建築事務所
 一級建築士事務所 兵庫県神戸市 登録番号 第 2-244

設計・監理・施工 片渚建築事務所	No.	野洲養護学校 教育施設改築工事
	A-4	配置図 縮尺 1/1000
	30枚の内	
	27	
平成23年10月	土曜 建築士事務所	

野洲養護学校	片渚建築事務所	
--------	---------	--

野洲養護 増築案

		18	3	6	6	6	9	3	6	
3F	マルチルーム 306	倉庫	図書 42	学習室 42	学習室 42	WC 84	EV	階段		7
		廊下								3
17		倉庫	学習室 42	学習室 42	HR⑪ 42	HR⑫ 42	HR⑬ 42	HR⑭ 42		7
		18	3	6	6	6	6	6	6	
		12	3	6	6	6	12	3	3	6
2F	音楽室 84	教材	プレイルーム 84	生徒 更衣42	WC 84	倉庫	EV	階段		7
	廊下								3	
7	調理室 84	教材	HR④ 42	HR⑤ 42	HR⑥ 42	HR⑦ 42	HR⑧ 42	HR⑨ 42	HR⑩ 42	7
		12	3	6	6	6	6	6	6	6
		6	6	9	6	6	12	3	3	6
1F	印刷室 倉庫42	職員 更衣42	昇降口 63	静養 42	相談 42	WC 84	倉庫	EV	階段	7
	廊下								3	
7	職員室 189			自立活動 84		HR① 42	HR② 42	HR③ 42		7
				27	12	6	6	6		

969 m² × 3F = 計 2,907 m²
+ 渡り廊下

旧	新																																																																																																															
<p>I～V 省略</p> <p>VI 具体的な対応</p> <p>1 方策別</p> <p>既存校での普通教室の増築等について</p> <p>(1) 省略</p> <p>(2) 平成25年度以降に増築する学校とその規模</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>使用開始</th> <th>増築規模</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>甲南高等養護学校</td> <td>平成25年度</td> <td>普通教室（3室）の増築</td> </tr> <tr> <td>北大津養護学校</td> <td>平成27年度</td> <td>普通教室（4室）の増築</td> </tr> <tr> <td>長浜養護学校</td> <td>平成29年度</td> <td>普通教室（6室）の増築</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-top: 20px;">特別支援学校への分校の設置について</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>< 聾話学校への設置 ></p> <p>(1) 聾話学校に知肢併置特別支援学校の分校を開設する理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本県では、昭和54年の養護学校義務制実施のときから知的障害と肢体不自由の複数の障害種の子どもたちが、同一の校舎で学んできた。 ○ 聾話学校の小・中学部に在籍する児童生徒の障害の状況は知的障害との重複化傾向にある。特に小学部においてその傾向が強くなっており、聴覚障害教育の専門性のみならず知的障害教育の専門性も求められている。 ○ 障害の重複化が進む聾話学校の敷地内に知肢併置特別支援学校の分校を設置し、両校の教員同士の交流を行うことで専門性をさらに向上させる。 <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">【聾話学校在籍者数および重複率の推移（H13～H23）】 【単位：人】</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H13</th> <th>H14</th> <th>H15</th> <th>H16</th> <th>H17</th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学部</td> <td>21</td> <td>18</td> <td>22</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>内重複</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>重複率</td> <td>23.8%</td> <td>22.2%</td> <td>13.6%</td> <td>17.2%</td> <td>16.1%</td> <td>20.7%</td> <td>27.6%</td> <td>35.7%</td> <td>46.4%</td> <td>37.9%</td> <td>41.9%</td> </tr> <tr> <td>中学部</td> <td>15</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>17</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>内重複</td> <td>3</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>重複率</td> <td>20.0%</td> <td>18.2%</td> <td>0.0%</td> <td>9.1%</td> <td>33.3%</td> <td>30.0%</td> <td>33.3%</td> <td>18.2%</td> <td>12.5%</td> <td>23.5%</td> <td>30.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 設置年度 平成27年度</p> <p>(3) 設置する分校で学ぶ児童生徒と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聾話学校内 (仮)野洲養護学校栗東分校 <小・中・高等部 100人程度> (栗東市居住) ・ 校舎の建築、スクールバスの配備、給食の提供 <p>(4) 設置による効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野洲養護学校通学区の南端に位置する栗東市域の児童生徒の通学負担を軽減することができる。 ・ 聾話学校の敷地内への設置により、両校の教員の日常的な教育技術の交流が可能となり、専門性の一層の向上が可能となる。 ・ 野洲養護学校の児童生徒の増加への緩和策となる。 </div>	学校名	使用開始	増築規模	甲南高等養護学校	平成25年度	普通教室（3室）の増築	北大津養護学校	平成27年度	普通教室（4室）の増築	長浜養護学校	平成29年度	普通教室（6室）の増築		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	小学部	21	18	22	29	31	29	29	28	28	29	31	内重複	5	4	3	5	5	6	8	10	13	11	13	重複率	23.8%	22.2%	13.6%	17.2%	16.1%	20.7%	27.6%	35.7%	46.4%	37.9%	41.9%	中学部	15	11	9	11	15	20	18	11	9	17	20	内重複	3	2		1	5	6	6	2	1	4	6	重複率	20.0%	18.2%	0.0%	9.1%	33.3%	30.0%	33.3%	18.2%	12.5%	23.5%	30.0%	<p>I～V 省略</p> <p>VI 具体的な対応</p> <p>1 方策別</p> <p>既存校での普通教室の増築等について</p> <p>(1) 省略</p> <p>(2) 平成25年度以降に増築する学校とその規模</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>使用開始</th> <th>増築規模</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>甲南高等養護学校</td> <td>平成25年度</td> <td>普通教室（3室）の増築</td> </tr> <tr> <td>北大津養護学校</td> <td>平成27年度</td> <td>普通教室（4室）の増築</td> </tr> <tr> <td>野洲養護学校</td> <td>平成27年度</td> <td>普通教室、特別教室等の増築</td> </tr> <tr> <td>長浜養護学校</td> <td>平成29年度</td> <td>普通教室（6室）の増築</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">< 削除 ></p>	学校名	使用開始	増築規模	甲南高等養護学校	平成25年度	普通教室（3室）の増築	北大津養護学校	平成27年度	普通教室（4室）の増築	野洲養護学校	平成27年度	普通教室、特別教室等の増築	長浜養護学校	平成29年度	普通教室（6室）の増築
学校名	使用開始	増築規模																																																																																																														
甲南高等養護学校	平成25年度	普通教室（3室）の増築																																																																																																														
北大津養護学校	平成27年度	普通教室（4室）の増築																																																																																																														
長浜養護学校	平成29年度	普通教室（6室）の増築																																																																																																														
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																																																																					
小学部	21	18	22	29	31	29	29	28	28	29	31																																																																																																					
内重複	5	4	3	5	5	6	8	10	13	11	13																																																																																																					
重複率	23.8%	22.2%	13.6%	17.2%	16.1%	20.7%	27.6%	35.7%	46.4%	37.9%	41.9%																																																																																																					
中学部	15	11	9	11	15	20	18	11	9	17	20																																																																																																					
内重複	3	2		1	5	6	6	2	1	4	6																																																																																																					
重複率	20.0%	18.2%	0.0%	9.1%	33.3%	30.0%	33.3%	18.2%	12.5%	23.5%	30.0%																																																																																																					
学校名	使用開始	増築規模																																																																																																														
甲南高等養護学校	平成25年度	普通教室（3室）の増築																																																																																																														
北大津養護学校	平成27年度	普通教室（4室）の増築																																																																																																														
野洲養護学校	平成27年度	普通教室、特別教室等の増築																																																																																																														
長浜養護学校	平成29年度	普通教室（6室）の増築																																																																																																														

2 学校毎の状況と対応

野洲養護学校

<対応策>

対応校	内容	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
野洲養護学校	普通教室（10室）の増築		80人					
甲南高等養護学校	定員増の効果	1人	2人	3人				
長浜高等養護学校	定員増の効果	1人	2人	2人	1人			
三雲養護学校	(仮)石部分教室設置の効果			8人	16人	24人		
野洲養護学校	(仮)栗東分校の設置					100人		

以下 省略

2 学校毎の状況と対応

野洲養護学校

<対応策>

対応校	内容	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
野洲養護学校	普通教室（10室）の増築	-	80人					
野洲養護学校	普通教室、特別教室等の増築					100人		
甲南高等養護学校	定員増の効果	1人	2人	3人				
長浜高等養護学校	定員増の効果	1人	2人	2人	1人			
三雲養護学校	(仮)石部分教室設置の効果			8人	16人	24人		

以下 省略

知肢併置特別支援学校における
児童生徒増加への対応策について

平成24年(2012年)10月

滋賀県教育委員会

目 次

<はじめに>	1
I 現状等	2
1 在籍者数の状況		
2 児童生徒数増加の主な要因		
II これまでの対応	4
III 在籍者数の推計	5
知肢併置特別支援学校の在籍者数推計		
IV 課題	6
V 今後の対応方針	6
児童生徒増加への対応についての基本的な考え方		
VI 具体的な対応	6
1 方策別	7
2 学校毎の状況と対応	10
北大津養護学校・長浜養護学校		
草津養護学校・野洲養護学校		
三雲養護学校・新旭養護学校		
八日市養護学校・甲良養護学校		
VII その他	14
資料	15

<はじめに>

- 障害のある子どもたちにとって、それぞれの持てる力を十分に発揮して、将来自立し社会参加することが大切であり、学校においては、子どもたちの自立を支援することができるよう、教育環境を整えていく必要がある。
このため、高等養護学校の設置や職業教育、生徒の就労支援事業などを実施しているが、今後も、社会的・職業的自立を支援するといった観点に立ち、施策を推進することとしている。
- 平成19年4月から特別支援教育が学校教育法に位置づけられ、教育上特別な支援を必要とする子どもが在籍するすべての学校において特別支援教育が実施されているが、特別支援学校においては、自立と社会参加を目指し、学校教育法施行令第22条の3に規定される障害の程度の者に対し、特別支援学校学習指導要領に基づき自立活動など障害の特性等に応じた専門的な教育を実施している。
- 全国的に特別支援学校の在籍者が増加しているが、滋賀県においてはその状況が顕著である。中でも知的障害者の増加傾向が大きいことから、県下各地域に設置している知的障害と肢体不自由に対応する県立特別支援学校8校の在籍者が急増し、大規模化・狭隘化への対応が喫緊の課題となっている。
- 平成21年3月、県立学校のあり方検討委員会から「今後の県立学校のあり方について」として報告が行われた。その中で、特別支援学校においては、知的障害者の増加傾向に鑑み、現有の施設の有効活用や改築・他の既存施設の活用などの検討が必要とされたところである。
- 一方、政府においては、平成21年12月に内閣総理大臣を本部長とする障がい者制度改革推進本部が設置され、教育の分野では平成22年7月に中央教育審議会に特別支援教育の在り方に関する特別委員会が設けられ、現在、障害者権利条約の締結に必要な国内法の整備を始めとする障害者制度の集中的な改革が進められているところである。
- 県教育委員会では、このような国の動きも見極めながら、県立特別支援学校の在籍者急増への対応策について検討してきたが、今般、次のとおり急増期における対応の具体策を取りまとめるものである。

I 現状等

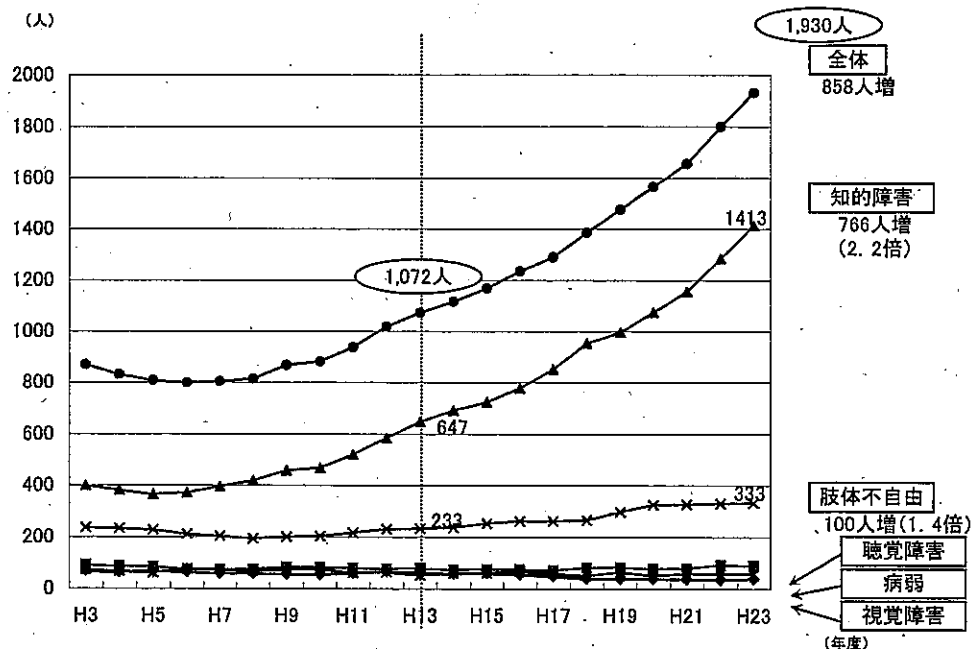
1. 在籍者数の状況

本県が設置している特別支援学校は、視覚障害（盲学校）1校、聴覚障害（聾話学校）1校、知的障害・肢体不自由（知肢併置養護学校^{〔注：1〕}）8校、知的障害（高等部単置の高等養護学校）2校、病弱（施設併設の養護学校）2校の計14校である。

平成23年5月1日現在の在籍者数は1,930人で、その内訳は、視覚障害37人、聴覚障害89人、知的障害1,413人、肢体不自由333人、病弱58人で、学部別では、幼稚部が27人、小学部が637人、中学部が445人、高等部が821人となっている。

在籍者数の増加状況については、この10年で858人増加している。障害種別では知的障害が766人増（2.2倍）と増加傾向にあり、肢体不自由が100人増（1.4倍）であるもののここ数年は横ばいで、聴覚障害、病弱は微増ないし横ばい、視覚障害は減少の傾向にある。学部別には、幼稚部は5人減（0.8倍）であるが、小学部は250人増（1.6倍）、中学部は213人増（1.9倍）、高等部は400人増（2.0倍）となっており、比較的軽度の知的障害者が増えている。〈グラフ1〉

〈グラフ1〉 県立特別支援学校障害種別在籍者数の推移



2 児童生徒数増加の主な要因

(1) 特別支援教育に対する理解の深まりと特別支援学校への評価と期待の高まり

本県の公立小中学校および県立特別支援学校小中学部に在籍する児童生徒数は、平成13年度が131,852人、平成23年度は126,598人となっている。その内、特別支援学級在籍者は、10年前の1,139人から2,744人、特別支援学校在籍者は、619人から1,082人といずれも増加している。

このことは、障害のある幼児児童生徒やその保護者において、より適切な指導や必要な支援を行う特別支援教育への理解が深まるとともに、一人ひとりの障害に応じたきめ細かな教育や専門的な進路指導の取組から、特別支援学校への評価と期待が高まり、入学者が増加したものと考える。

【単位:人】

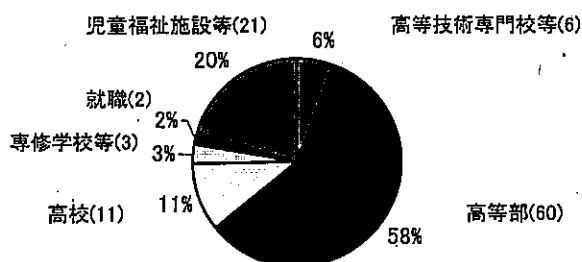
	平成13年度	率	平成23年度	率	増減
公立 義務教育段階児童生徒数	131,852	-	126,598	-	△ 5,254
その内 特別支援学級在籍者	1,139	0.86%	2,744	2.17%	1,605
その内 特別支援学校在籍者	619	0.47%	1,082	0.85%	463
特別支援学級・学校在籍者の計	1,758	1.33%	3,826	3.02%	2,068

(2) 中学校特別支援学級在籍者増と高等部への進学志向の高まり

公立中学校特別支援学級卒業生の進路状況を見ると、平成12年度の卒業生は、特別支援学校高等部への進学が半数を占めるものの、児童福祉施設等の進路も多い。平成22年度は、高等部や高校進学が大半を占めてきている。特に、知的障害では、151人のうち7割を越える109人が、特別支援学校高等部（県外を含む）に進学している。<グラフ2><グラフ3>

<グラフ2>

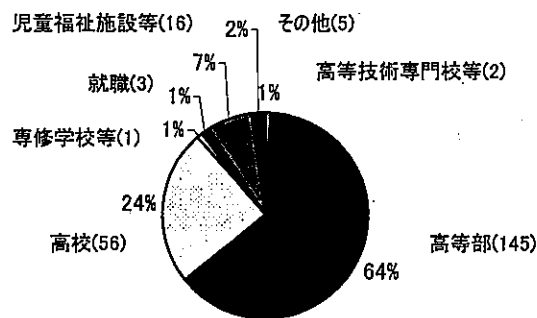
【平成12年度障害児学級卒業生進路状況:103人】



【単位:人】

<グラフ3>

【平成22年度特別支援学級卒業生進路状況:229人】



【単位:人】

Ⅱ これまでの対応

これまでの児童生徒増に伴う対応については、学校の再編整備に加え、各校においても指導する学習集団の編成の工夫や、特別教室の普通教室への転用などを行ってきた。平成18年度以降に行った特別支援学校に関する対応の主なものは、次のとおり。

○ 知肢併置特別支援学校の再編整備

肢体不自由対象の八幡養護学校を野洲市に新築移転し、知肢併置の野洲養護学校とするとともに、知的障害対象の八日市養護学校に肢体不自由部門を併置し、あわせて、草津養護学校を含めた3校の通学区域の再編を行った。

対 応 校 ・ 内 容 等			H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
八幡、八日市、 草津養護学校 再編整備	八幡→野洲	知肢化(移転新築)、通学区域の分割			知肢化				
	八日市	知肢化(ハリアリ化)、通学区域の分割			知肢化				
	草津	通学区域の縮小(栗東市域→野洲)			栗東市 分離				

○ 高等養護学校の新設と定員の拡大

高等部単独の知的障害特別支援学校として、ノーマライゼーション理念の実現と社会的・職業的自立をめざす高等養護学校を高等学校に併設して、2校新設した。

また、志願者が多いことから、平成23年度および平成24年度の募集にあたっては、両校の定員枠を拡大した。

対 応 校 ・ 内 容 等			H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
長浜高等養護学校の開設	長浜高校に併設：定員16人・8人2学級	開設						定員増	定員増
甲南高等養護学校の開設	甲南高校に併設：定員16人・8人2学級	開設		開設				定員増	定員増

○ 校舎の増築

狭隘化の著しい知肢併置特別支援学校に普通教室の増築を行った。

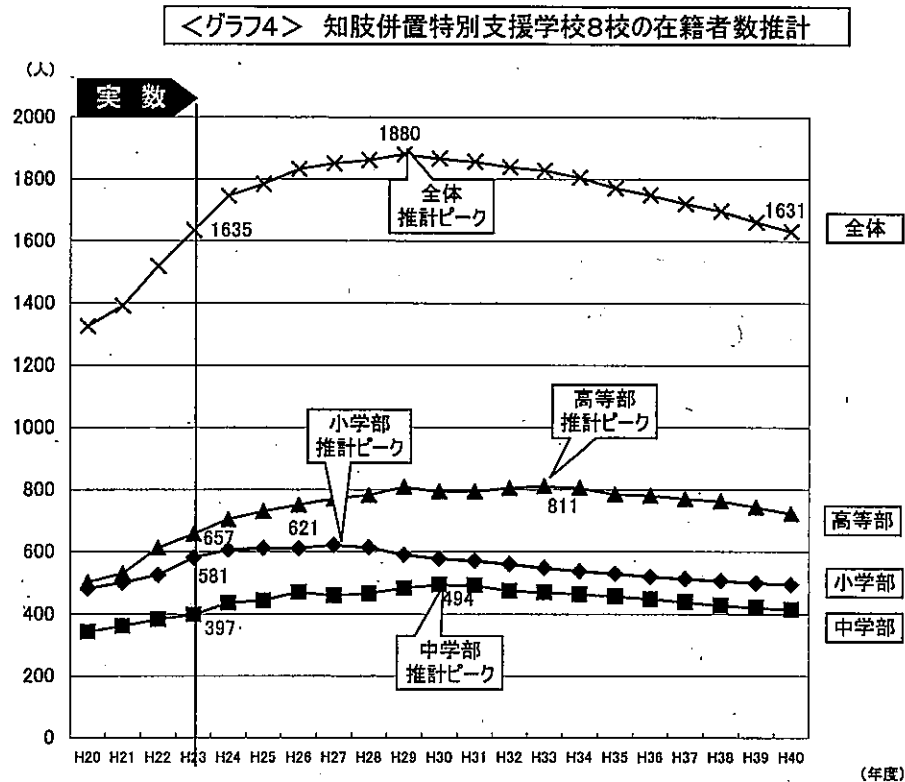
対 応 校 ・ 内 容 等			H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
草津養護学校	普通教室(9室)の増築							増築	
三雲養護学校	普通教室(6室)の増築							増築	
野洲養護学校	普通教室(10室)の増築								増築

Ⅲ 在籍者数の推計

□ 知肢併置特別支援学校の在籍者数推計

増加の著しい知肢併置の特別支援学校における、今後の在籍者数を推計した。

- 今後の推計では、各学部毎に在籍者が最多となる年度は異なるが、8校全体としては6年後の平成29年度がピークとなり、今年度より245人増加の1,880人と見込んでいる。〈グラフ4〉



※推計の方法

小学部1年生については、平成20年度から平成23年度の就学年齢人口に対する特別支援学校小学部1年生の割合（以下、「在籍率」という。）の平均を求め、これを未就学児の各年齢人口に乗じて今後の小学部1年生の児童数を求めた。

中学部1年生については、特別支援学級からの進学者があることから、小学部6年の在籍率と中学部1年生の在籍率を比較し、その増加分の平均を小学部の在籍率に加算し、これを中学部1年生就学年齢人口に乗じて、中学部1年生の生徒数を求めた。

高等部1年生については、中学部1年生と同様の方法で求めた。

各学部2年生以降は、1年生の人数で進級するものとした。

なお、将来の人口予測は、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計値による。

IV 課題

児童生徒の増加傾向が著しい知肢併置の特別支援学校では、特別教室の普通教室への転用や、教室の間仕切り等により教室の確保を行ってきたが、今後も在籍者が増加していくと、教室確保が困難な状況となる。このため、普通教室の整備を計画的に進めていく必要がある。

また、スクールバスや給食施設・設備の整備、教職員の確保についても、今後の児童生徒の増加に伴って対応が必要となる。

V 今後の対応方針

□ 児童生徒増加への対応についての基本的な考え方

障害のある生徒が卒業後、自立して社会参加していくことが大切であり、そのための学習の場をできるだけ早く整えていく必要があることから、次の考えにより、児童生徒増加への対応を図ることとする。

- (1) 増加の傾向が著しい知的障害、特に高等部生徒への対応を中心に行っていく。
- (2) 児童生徒増に対して、緊急に対応しなければならないため、現有施設の活用を中心として対応していく。

VI 具体的な対応

知肢併置特別支援学校の児童生徒増加への対応について、方策別および学校毎に以下に示す。

1 方策別

既存校での普通教室の増築等について

(1) 普通教室等の増築の必要性

- 近年、特別支援学校の児童生徒数が増加しているが、特に知肢併置の特別支援学校においては、この10年間で1.9倍となっている。
 - 平成20年度には、肢体不自由児を対象としていた八幡養護学校を、野洲養護学校へと移転新築し、知肢併置の特別支援学校として整備するとともに、知的障害児を対象としていた八日市養護学校を知肢併置の特別支援学校とし、あわせて、草津養護学校との3校間で通学区域の再編を行った。
 - 平成23年度に草津養護学校と三雲養護学校で、増築した普通教室の使用を開始し、平成24年度は野洲養護学校で、増築した普通教室の使用を開始する。
- ⇒ 知肢併置特別支援学校の児童生徒は、引き続き増加の傾向にあると見込まれることから、児童生徒の学習環境の維持・向上のため、北大津養護学校、長浜養護学校、甲南高等養護学校において普通教室の整備を行う。

【知肢併置特別支援学校在籍者数の推移と増加率（H13→H23）】

【単位：人】

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	増加率
知的	647	691	722	776	851	936	947	998	1,063	1,189	1,302	2.0倍
肢体	233	237	253	262	262	265	298	326	327	330	333	1.4倍
計	880	928	975	1,038	1,113	1,201	1,245	1,324	1,390	1,519	1,635	1.9倍

(2) 平成25年度以降に増築する学校とその規模

学校名	使用開始	増築規模
甲南高等養護学校	平成25年度	普通教室（3室）の増築
北大津養護学校	平成27年度	普通教室（4室）の増築
野洲養護学校	平成27年度	普通教室、特別教室等の増築
長浜養護学校	平成29年度	普通教室（6室）の増築

※ 高等養護学校については志願者が多いことから、平成23年度から募集定員を増員した。今後、甲南高等養護学校の定員増を恒常的なものとするため、普通教室の増設を行う。なお、高等養護学校の定員増は、知肢併置特別支援学校の増加緩和に一定の効果もある。

高等学校への分教室の設置について

(1) 高等学校に知肢併置特別支援学校の分教室を開設する理由

- この10年間の知肢併置特別支援学校の在籍者数は、1.9倍で、そのうち知的障害者は2.0倍となっている。また、部毎で見ると高等部生が増加の4割強を占めている。
- 中学校特別支援学級から特別支援学校に進学する生徒は、学級在籍者数の増加に加え、進学志向の高まりから増加している。
- 本県としては、高等部生徒が卒業後、自立して社会参加していくことが大切であると考え、特別支援学校は社会に自立し出て行くための支援を行う中心的教育機関と考える。
- 知肢併置特別支援学校の敷地の狭隘化により、敷地内に増築が困難となっている学校もあり、現有高校施設を知的障害高等部生のために活用する。

【知肢併置特別支援学校在籍小・中・高別増加状況 (H13→H23)】

【単位:人】

H13	
小学部	339
中学部	201
高等部	340
全体	880

→

推移

H23	
小学部	582
中学部	396
高等部	657
全体	1,635

部毎の状況		
	増加数:a	a/b
小学部	243	32.2%
中学部	195	25.8%
高等部	317	42.0%
全体:b	755	

【知肢併置特別支援学校高等部入学者内訳 (H13→H23)】

【単位:人】

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
高等部1年	119	141	141	156	169	176	151	180	202	233	224
内部進学者	54	58	69	79	67	76	84	95	97	121	114
外部入学者	65	83	72	77	102	100	67	85	105	112	110

(2) 設置年度 平成25年度 <学年進行>

(3) 設置する学校および規模と対応

- * 伊吹高校内 (仮)長浜養護学校伊吹分教室 <1学級8人×2学級 16人>
- * 石部高校内 (仮)三雲養護学校石部分教室 <1学級8人×3学級 24人>
- ・ 校舎の改修等、スクールバスの配備、給食の提供

(4) 設置による効果

- ・ 高校内に設置することで、両校生徒の思いやりや協調性のある豊かな人間性・社会性の育成が可能となる。
- ・ 高校教員にとって、校内に特別支援学校分教室が設置されることで、特別支援教育に関する専門知識を日常的に得ることが可能となり、教育上、特別な支援を必要とする高校生にとって有効となる。

高等学校への高等養護学校の設置について

(1) 高校に高等養護学校を設置する理由

- 本県では、ノーマライゼーションと障害者の自立を目指す教育に取り組む一環として、高校生と養護学校生が同一の敷地で共に学べる環境づくりを進めることにより、思いやりや協調性のある豊かな人間性や社会性の育成を図るとともに、障害のある生徒の社会的自立や職業的自立に向けた教育を行うため、平成18年4月に長浜高等養護学校を、平成19年4月に甲南高等養護学校を開設した。
- 既設2校の募集定員は16人であったが、両校の志願者は多く、このような状況を受けて平成23年度、24年度の定員を16人から24人に増員してきたところである。
- 地域的に見ると、現在設置している両高等養護学校の間位置する愛知高校の施設・設備を活用し、高等養護学校を開設する。

【高等養護学校出願状況 (H18~H24)】

【単位:人】

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
募集定員	16	16	16	16	16	24	24
出願	長浜高等	27	25	19	22	27	39
	倍率	1.7	1.6	1.2	1.4	1.7	1.6
	甲南高等		13	32	26	31	42
	倍率		0.8	2.0	1.6	1.9	1.8
	2校計		38	51	48	58	81
	倍率		1.2	1.6	1.5	1.8	1.7

【高等養護学校進路状況 (H20~H22)】

長浜高等養護学校		甲南高等養護学校	
【平成20年度卒業生】 15人			
企業就労	10人 (66. 7%)		
福祉的就労	3人 (20. 0%)		
訓練施設等	2人 (13. 3%)		
【平成21年度卒業生】 14人		【平成21年度卒業生】 14人	
企業就労	11人 (78. 6%)	企業就労	8人 (57. 1%)
福祉的就労	3人 (21. 4%)	福祉的就労	4人 (28. 6%)
		訓練施設等	2人 (14. 3%)
【平成22年度卒業生】 15人		【平成22年度卒業生】 16人	
企業就労	12人 (80. 0%)	企業就労	12人 (75. 0%)
福祉的就労	3人 (20. 0%)	福祉的就労	3人 (18. 8%)
		訓練施設等	1人 (6. 2%)
<3年計> 44人	33人 (75. 0%)	<2年計> 30人	20人 (66. 7%)

(2) 設置年度 平成25年度

(3) 設置する学校および規模

愛知高校内 (仮)愛知高等養護学校 <1学級8人×2学級 16人>

2 学校毎の状況と対応

北大津養護学校

<在籍者数の推移と状況>

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
小学部	38	35	33	37	42	47	48	52	52	51	43	42	41	40	39
中学部	46	48	45	40	48	43	42	33	37	39	49	49	48	42	41
高等部	52	54	77	89	94	89	83	92	87	85	76	80	81	90	89
計	136	137	155	166	184	179	173	177	176	175	168	171	170	172	169

児童生徒数が増加してきたが、平成24年度をピークに在籍者数は減少する。しかし、生徒数の減少傾向は非常に緩やかと見込まれるため、急増期に転用してきた特別教室の復元が長期にわたってできない。

このため、普通教室を増築し教室数の確保を図る一方で、特別教室の復元を行う必要がある。

<対応策>

対応校・内容等		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
北大津養護学校	普通教室（4室）の増築					32人		

長浜養護学校

<在籍者数の推移と状況>

【単位：人】

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
小学部	46	52	58	68	78	76	79	78	76	71	68	66	64	63	61
中学部	36	37	42	38	41	47	51	56	54	60	62	61	57	53	52
高等部	64	74	86	90	91	94	101	98	105	109	113	109	112	112	111
計	146	163	186	196	210	217	231	232	235	240	243	236	233	228	224

平成20年度以降激増状況にあり、ピークは平成30年度と予想する。10年前のほぼ2倍の在籍状況（約100人増）にあり、市町合併以降、義務段階での入学も増えている。

平成23、24年度は通学区域内にある長浜高等養護学校の定員増を行い、増加緩和に一定の効果はあったが、伊吹高校に長浜養護学校の分教室を設置することに加え、普通教室の増築の対応が必要となる。

<対応策>

対応校・内容等		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
長浜高等養護学校	定員増の効果	4人	8人	8人	4人			
長浜養護学校	(仮)伊吹分教室の設置			16人	32人	48人		
長浜養護学校	普通教室（6室）の増築							48人

草津養護学校

<在籍者数の推移と状況>

【単位：人】

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
小学部	94	93	97	103	107	105	106	104	102	104	97	95	92	90	88
中学部	61	64	67	69	73	76	82	81	80	78	81	80	82	77	76
高等部	82	93	105	104	117	118	124	122	126	131	130	129	126	128	127
計	237	250	269	276	297	299	312	307	308	313	308	304	300	295	291

平成20年度の再編整備による栗東市域分割で、今後、急激な増加はないと予想される。
平成23年度に普通教室9室の増築の対応も図っており、加えて甲南高等養護学校の定員増や(仮)三雲養護学校石部分教室の設置により、おおむね対応が可能と考える。

<対応策>

対 応 校 ・ 内 容 等		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
草津養護学校	普通教室（9室）の増築	72人						
甲南高等養護学校	定員増の効果	2人	4人	6人				
三雲養護学校	(仮)石部分教室設置の効果			4人	8人	12人		

野洲養護学校

<在籍者数の推移と状況>

【単位：人】

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
小学部	89	91	102	114	124	134	130	139	143	140	136	135	134	131	129
中学部	42	54	62	78	81	85	95	93	100	99	111	117	117	115	114
高等部	60	78	90	102	117	126	142	143	149	160	159	166	165	178	185
計	191	223	254	294	322	345	367	375	392	399	406	418	416	424	428

栗東市域の年次編入と人口増地域に立地することから、平成20年の新築後3年で100名増となった。平成24年度に普通教室10室増築となるが、急増傾向は平成34年度まで続くため、さらなる対応が必要となる。

<対応策>

対 応 校 ・ 内 容 等		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
野洲養護学校	普通教室（10室）の増築		80人					
野洲養護学校	普通教室、特別教室等の増築					100人		
甲南高等養護学校	定員増の効果	1人	2人	3人				
長浜高等養護学校	定員増の効果	1人	2人	2人	1人			
三雲養護学校	(仮)石部分教室設置の効果			8人	16人	24人		

三雲養護学校

<在籍者数の推移と状況>

【単位:人】

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
小学部	72	79	86	94	97	94	95	94	91	85	87	85	83	81	79
中学部	55	62	61	69	63	66	66	70	69	74	69	67	62	65	64
高等部	76	79	95	94	107	105	111	104	108	107	111	108	113	107	104
計	203	220	242	257	267	265	272	268	268	266	267	260	258	253	247

平成23年度に普通教室6室増築の対応が図られたが、平成10年度から150人を越える急激な増加の状況に対して、さらなる対応が必要となる。

<対応策>

対 応 校 ・ 内 容 等		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
三雲養護学校	普通教室（6室）の増築	48人						
甲南高等養護学校	定員増の効果	4人	8人	12人				
三雲養護学校	（仮）石部分教室設置の効果			12人	24人	36人		

新旭養護学校

<在籍者数の推移と状況>

【単位:人】

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
小学部	19	16	12	16	16	14	14	16	16	12	13	13	13	12	12
中学部	12	11	19	21	22	17	17	16	13	17	17	17	13	14	14
高等部	36	36	31	33	39	55	51	47	43	42	39	35	39	39	38
計	67	63	62	70	77	86	82	79	72	71	69	65	65	65	64

知肢併置8校のうち唯一大幅な増加傾向にないため、現有施設での対応が可能と考える。

八日市養護学校

<在籍者数の推移と状況>

【単位：人】

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
小学部	75	80	85	92	79	78	74	74	68	67	74	74	73	72	70
中学部	42	39	38	35	55	59	68	58	61	58	50	44	43	51	51
高等部	55	46	55	66	61	60	59	80	84	93	82	85	81	73	67
計	172	165	178	193	195	197	201	212	213	218	206	203	197	196	188

平成20年度の知肢併置化により、それまでの大規模化には一定の歯止めとなったが、それ以降の児童生徒増により、平成29年度に最大の218人となる見込である。しかし、高等養護学校の開設等による効果により、現有施設での対応が可能と考える。

<対応策>

対応校・内容等		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
甲南高等養護学校	定員増の効果	1人	2人	3人				
長浜高等養護学校	定員増の効果	1人	2人	2人	1人			
高等養護学校	(仮)愛知高等養護学校開設の効果			8人	16人	24人		

甲良養護学校

<在籍者数の推移と状況>

【単位：人】

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
小学部	48	54	52	57	63	64	65	64	66	60	60	60	60	59	59
中学部	48	45	48	47	52	49	49	52	51	57	55	57	52	52	51
高等部	76	70	73	79	78	83	80	84	80	81	84	82	87	84	84
計	172	169	173	183	193	196	194	200	197	198	199	199	199	195	194

緩やかではあるが、平成12年度から増加傾向にあり、平成27年度に最大の200人となる見込である。しかし、高等養護学校の開設等による効果により、現有施設での対応が可能と考える。

<対応策>

対応校・内容等		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
長浜高等養護学校	定員増の効果	2人	4人	4人	2人			
高等養護学校	(仮)愛知高等養護学校開設の効果			8人	16人	24人		

現在、政府において障害者の権利に関する条約批准に向けた制度改革が進められている。教育分野では平成22年12月、中央教育審議会初等中等教育分科会特別支援教育の在り方に関する特別委員会において「インクルーシブ教育システムの理念とそれに向かっていく方向性に賛成する」と整理され、平成23年8月5日には障害者基本法が改正されたことから、これらを踏まえて文部科学省において、速やかに制度改正等を行うことが検討されている。

在籍者数は、人口動向や保護者の意向に加え、このような国の動向が大きく関わることから、今後、推計数から大きく変動することも十分考えられる。

このため、今後においても適宜、推計の見直しを図り、本県の財政状況も鑑みつつ、児童生徒の学習環境の充実に努めていくこととする。

【注:1】 知肢併置

児童生徒等の障害の重度・重複化に伴い、複数の障害種に対応した教育が実施できるようにするため、平成19年の学校教育法の改正により、それまでの盲学校、聾学校、養護学校が「特別支援学校」に一本化された。対象とする障害の種類はこれまでどおり、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の5つである。

本県は、法改正以前の養護学校義務制実施の昭和54年度から、障害のある児童生徒が地域で生活し、通学が可能となるよう福祉圏域を基本に、知的障害と肢体不自由の2つの障害に対応する養護学校を設置してきた。知的障害と肢体不自由に対応することから、知肢併置という言葉を使っている。

県立特別支援学校の在籍者数の増加とその対応について

【 在籍者数の推移 】

＜各年5.1現在の在籍者数＞ (人)

年度	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
特別支援学校全体	813	867	881	938	1,019	1,072	1,117	1,169	1,234	1,290	1,385	1,476	1,566	1,654	1,799	1,930
うち知的障害	419	458	468	521	585	647	691	722	776	851	952	995	1,074	1,155	1,284	1,413
うち肢体不自由	194	200	203	217	230	233	237	253	262	262	265	298	326	327	330	333
知的・肢体 合計	613	658	671	738	815	880	928	975	1,038	1,113	1,217	1,293	1,400	1,482	1,614	1,746

高等養護生を含む
(内高等養護生)

16 48 76 92 95 111

【 在籍者数の増加に対する対応＜知的・肢体＞の経過 】

* 供用開始年度

年度		H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
整備対応	新設等	甲良養護学校開校	新旭養護学校開校									長浜高等養護学校開校	甲南高等養護学校開校	八日市・八幡養護再編整備→野洲養護新築				
	増築等 知肢併置養護学校					○長浜増築	○草津増築	○甲良増築	○八日市増築	○三雲増築	○三雲増築			○八日市増改築			○草津：高等部9教室増築 ○三雲：高等部6教室増築	○野洲：高等部10教室増築

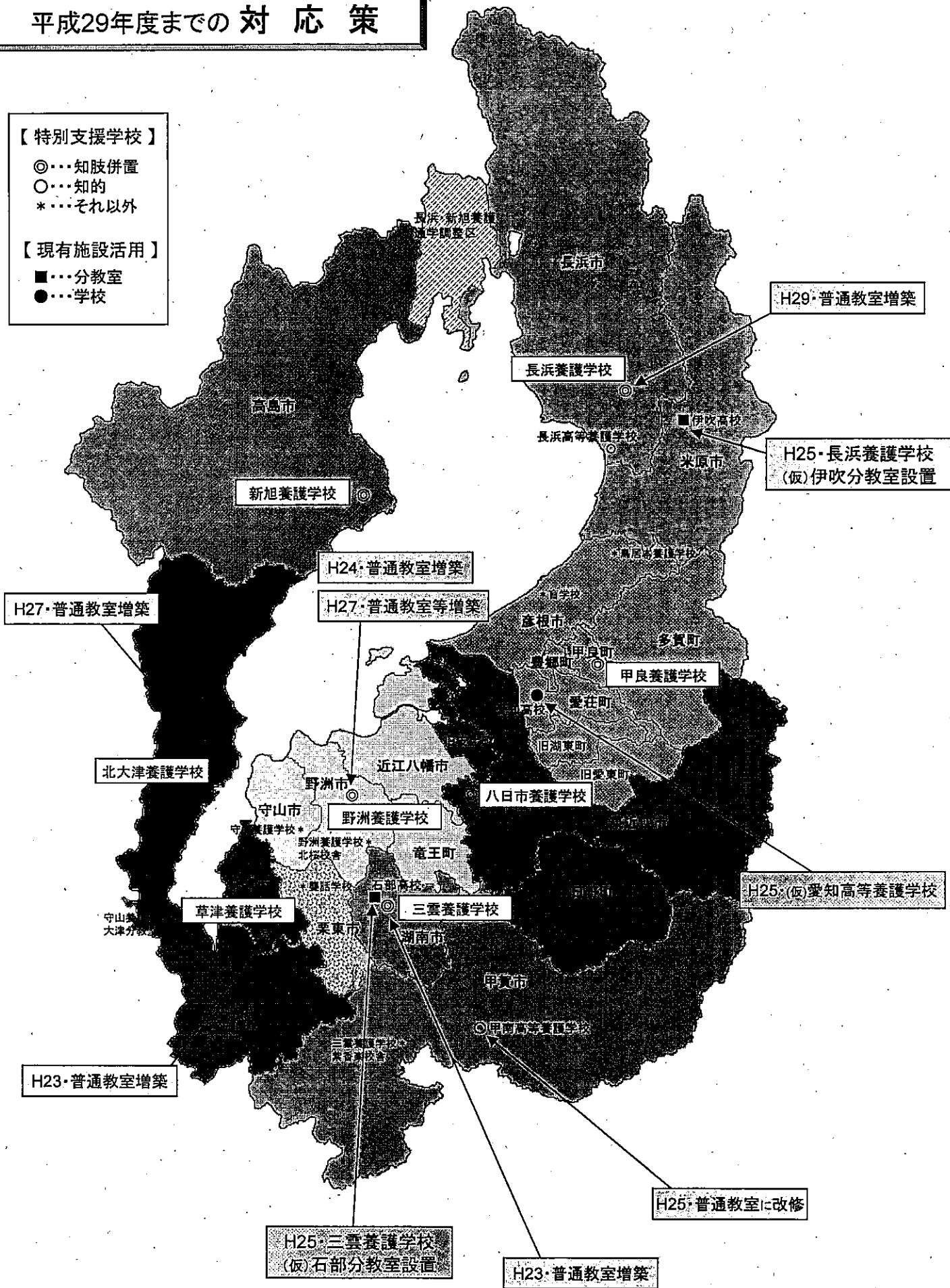
知肢併置特別支援学校児童生徒増加への 平成29年度までの対応策

【特別支援学校】

- ◎・・・知肢併置
- ・・・知的
- *・・・それ以外

【現有施設活用】

- ・・・分教室
- ・・・学校



滋賀県立特別支援学校の沿革と今後

S3... 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 ... H 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

<昭23:盲学校・聾話学校義務制実施>

盲学校



聾話学校



<昭54:養護学校義務制実施>

知的障害
 知的障害・肢体不自由
 肢体不自由
 病弱

